

おいしいと言ってもらえるように

中え島中央小学校四年 笹岡 大和

ぼくの母親の実家は、米作り農家です。場所
は新潟市の西蒲区、旧巻町にあります。田
んぼからは、弥彦山と角田山がよく見えます。
天気の良い日は、とても景色がキレイです。

ぼくは、四才のころから米作りのお手伝い
をしています。米作りには、たくさんのおじ
ゃんびや仕事があります。五月の連休中に毎年
田植えを行います。その前にも田んぼの土
作りをしたり、苗を育てたりと、一年中やら
なければならぬ仕事があります。

米作りのお手伝いは、きつくて大変な仕事
が多くあります。たくさんのお機械や道具を使
うだけでなく、天気にも左右されます。せつ
かくみなが仕事のために集まっても、機械
の調子が悪かったり、天気が荒れていては、
作業が思うように進みません。その他にも、
服や手が汚れる仕事や、重いものを運ぶ作業
が多く、お手伝いが終わるころには、疲れて

ぐったりとしてしまいます。ぼくは米作りの中でほんの一部のお手伝いしかしていませんが、秋になり、米を収かくするまでには、本当にたくさんの苦勞があります。

しかし、米作りは苦しいことばかりではありません。たくさんの楽しいことでもあります。ふだんなかなか会えない親せきのおいさんと一緒にすごせたり、連休中はがっといとこたちとご飯を食べたり、遊んだりできます。また、母親の実家では、毎年関東地方からの米

作り体験ツアーのお客さんがたくさんやって来ます。大型バスに乗って、大勢の参加者が群馬県や東京都から、はるばる集まってくれます。ふだん都会に住んでいる人ばかりなので、メダカやザリガニを見ただけで、大よろこびしています。体験が終おると、みんなで恒例のバーベキューが始まります。そのころには、みんなが打ちとけて仲良くなっています。バスが出発する時は、少しさみしい気持ちになります。

去年は、とてもうれしい出来事がありました。ぼくがお手伝いをしてとれたお米が、コンクールで二位になりました。米作りに参加した全員が大よろこびをしました。「大和が手伝ってくれたから、いいお米ができたよ。」と言ってもらえました。すごくうれしかったです。

もうすぐ今年の新米がとれます。一生けん命お手伝いしたので、きっと今年もおいしいお米がとれるはずです。ぼくは、そのお米は日本一だと信じています。